

Title	社会科学古典資料センター長に就任して
Author(s)	安藤, 英義
Citation	一橋大学社会科学古典資料センター年報, 19: 1-1
Issue Date	1999-03-31
Type	Departmental Bulletin Paper
Text Version	publisher
URL	http://doi.org/10.15057/5431
Right	

社会科学古典資料センター長に就任して

As the Director of the Center for
Historical Social Science Literature

安藤 英義

ANDO Hideyoshi

私は昨年12月1日付けで社会科学古典資料センター長に就任しました。しばらくして、渡会教授はじめセンターの教職員の方々からセンターの現状と課題について説明を受け、古典資料の保存修復工房と書庫を一巡しました。わが国における古典資料の重要なセンターとして、利用者への日常サービスのほかに、他大学にはない保存修復工房での作業、所蔵資料のデータベース化およびカタログ作成、さらに西洋社会科学古典資料講習会の開催など、地味ではあるが大切な仕事を着実に実行していることを改めて知りました。と同時に、以下のような思いが胸に去来しました。

センターの設置は昭和53年です。私が本学大学院を出て任官したのが昭和49年ですから、大学院時代にはセンターはまだありませんでした。しかし、私はその当時よく利用した文献の多くが、今はセンターに収蔵されています。会計と商法の交叉領域を制度史および制度比較アプローチにより研究するという大学院時代の計画は、それに必要なヨーロッパの関係文献が本学に豊富に存在したから可能であったのです。

当時利用した文献で最古のものは、Jacques Savary, *Le Parfait Négociant*, 4^e éd., Lyon, 1697です。本書は第二書庫の4階にあった貴重書々庫に置かれていました。当時は大学院生も同書庫の鍵を借りて入庫ができました。19世紀中頃までの貴重書が整然と並んでいる同書庫にはじめて入った時の感動が、センターの書庫を案内されてよみがえりました。

原本に当たることの大切さは言うまでもありませんが、このような貴重書に直接触れることの意義は相当に大きいようです。それは、本物のもつ歴史の重みから来る感動を見る人に与え、探求心を刺激する力が確かにあることなのでしょう。このような力に与かるには、復刻版ではなくオリジナルの文献が最高です。私自身、古いオリジナル文献に触れる環境に居なかったら、任官後10年の博士論文完成まで探求心が持続したかどうか分かりません。

センターは社会科学の古典資料を収蔵しているわけですが、惜しいことに重要な一点を欠いています。それは、Luca Pacioli, *Summa de Arithmetica Geometria Proportioni et Proportionalita*, Vinegia, 1494です。本書は当時のイタリア語で書かれたいわば数学全書ですが、その中に出版地ヴェニスで簿記法を詳述した部分があり、それゆえに本書は活版印刷による最古の複式簿記書であり、最古の経済系図書であるとされています（東洋経済新報社刊『体系経済学辞典』巻末の「経済学文献年表」参照）。

昭和50年代の半ば、私が助教授のときに、書籍商からこの原本を入手したので是非買わないかという話が大学に持ち込まれたことがありました。センターにあるべき書物であり、会計学エリアの後押しがあれば何とかあったかもしれないのですが、残念なことに、復刻版があれば十分であるというのが当時のエリアの多数意見でした。それほど高い値段ではなかった同書は、その後すぐに某私大に買われたと聞きました。センター長に就任して、残念な思いを新たにしています。

(一橋大学附属図書館長・商学部教授)